

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 2 月 23 日 (2006.2.23)

【公表番号】特表 2002-505935 (P2002-505935A)

【公表日】平成 14 年 2 月 26 日 (2002.2.26)

【出願番号】特願 2000-535426 (P2000-535426)

【国際特許分類】

A 6 3 C 5/00 (2006.01)

A 6 3 C 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 C 5/00 C

A 6 3 C 5/04

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ボードと、該ボードの上面にその長さのほぼ 1 / 3 に相当する距離だけ互いに離隔した位置に取り付けられた 2 つのピンディングから成り、該ボードは、内方へ湾曲した両側エッジ部分を有し、該ボードの幅は、18 cm より大きい最小幅を有する中間部 (6) より、両尖端 (3) への遷移部 (4, 8) に位置する両端の方が幅が広くなっており、該両尖端は上向きに湾曲されており、随意選択としてとして一方の端部の尖端の湾曲度が他方の端部の尖端の湾曲度より緩やかにされているスノーボードにおいて、

a) 該スノーボードは、その滑り面を構成するソール面を有し、該ソール面は、前記両尖端間で、前方部分 (4 - 5) と中央部分 (5 - 7) と後方部分 (7 - 8) の 3 つの部分に分割されており、該ソール面 (1) は、該 3 つの部分 (4 - 5, 5 - 7, 7 - 8) の全部を含めた長手方向の中間部に延在する主要区域 (1) を有し、ボードがベースに押圧されたとき平坦になり、該主要区域 (1) は、その平坦な面を画定するのに十分な長さに対して該スノーボードの横断方向に 4 cm の最小幅を有すること、

b) 前記主要区域 (1) の各側において、該スノーボードのソール面は、前記前方部分 (4 - 5) と後方部分 (7 - 8) に第 2 側方区域 (2) を有し、該各第 2 側方区域 (2) は、前記尖端への前記遷移部 (4, 8) の位置で少なくとも 4 cm の幅を有すること、

c) 前記前方部分及び後方部分の、該スノーボードの一方の側に位置する前記第 2 側方区域の合計長さは、前記主要区域 (1) の長さの少なくとも 1 / 10 であること、

d) 前記第 2 側方区域 (2) は、断面でみて (図 2) 実質的に直線を画定すること、

e) 前記第 2 側方区域は、剛性であり、ボードのエッジを立てない限り、地面に接触しないこと、

f) スノーボードの断面でみて前記第 2 側方区域が前記主要区域に対してなす角度は、前記中央部分 (5 - 7) から前記両尖端への遷移部 (4, 8) に向かってほとんど増大しており、それによって、該第 2 側方区域又はその大部分が、ねじられており、該中央部分 (5 - 7) から両尖端への遷移部 (4, 8) に向かって漸次地面から持ち上げられていること

を特徴とするスノーボード。

【請求項 2】 前記主要区域 (1) の幅は、少なくとも 6 cm であることと請求項 1 に記載のスノーボード。

【請求項 3】 一方の側の前記第 2 側方区域 (2) は、それと同じ側の前記主要区域 (1) の長さの少くとも $1/5$ である請求項 1 又は 2 に記載のスノーボード。

【請求項 4】 前記第 2 側方区域 (2) は、前記主要区域 (1) の平面に対してねじられており、該スノーボードの断面でみて該第 2 側方区域 (2) の該第主要区域 (1) に対する角度は、前記中央部分 (5 - 7) から前記両尖端への遷移部 (4, 8) に向かって 5 cm ごとの長さ間隔で漸次増大している請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載のスノーボード。

【請求項 5】 該ボードは、その長手軸線に関して対称である請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載のスノーボード。

【請求項 6】 該ボードは、その長手軸線に関して非対称である請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載のスノーボード。

【請求項 7】 該ボードは、その中心横断軸線に関して対称である請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載のスノーボード。

【請求項 8】 該ボードは、その中心横断軸線に関して非対称である請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載のスノーボード。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明は、上記ノルウェー特許第 301964 号に記載されたアルペンスキーの開発に基づいている。スキーもスノーボードもアルペン地形において滑降 (ダウンヒル) スキー及び回転に用いられるものであるとしても、両者の間には大きな相異がある。その相異は、それらの 2 つの運動具 (スキーとスノーボード) の設計上の相異と、それらの運動具の操作態様の相異に起因している。スキーの場合は、スキーヤーの体重は、片足づつを 1 つのスキーの中央部のビンディングに固定した状態で分配され、スキーは、その全長の少くとも大部分が細長く、比較的幅狭であり、中央部に圧力荷重をかけられると、ベースに対していろいろな異なる位置をとることができる。これに対してスノーボードの場合は、プレーヤーは、両足を相当に幅の広いボード上に横断した位置に載せて身体全体の動きと、体重をボードの全部と後部の間に分配することによってボードを操る。ボードは、スキーより比較的幅広で短く、体重の分配も異なるので、スキーより高い剛性を有するばかりでなく、操縦される態様も異なる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明によるスノーボードは、特に、スノーボードの第 2 側方区域をねじる (らせん状に湾曲させる) ことを要件とするという点で上述した従来のスキーの構造とは異なる。ここで、「ねじる」とは、ボードの横断方向でみた、ベースに対する第 2 側方区域のねじれ角度をボードの中央部分から尖端の前方区域にまでほとんど増大させることをいう。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

スノーボードのエッジ区域のスチールエッジの湾曲度がきついほど、ジャンプ後着地し

たとき、特にほぼ平らに着地したとき、無制御の態様で脇へ滑る傾向が大きくなる。この点、本発明は、スノーボードの凹入湾曲がきついほど、より高い安全性を付与する。ボードを中央部分の全幅に沿ってほぼ平坦にすることができることによって、ボードが雪面に平らに当接したとき、かなりのエッジ把持力が得られる。ボードの前部と後部では、ソールの左右部分が上向きにねじられており、それによって、スチールエッジの食い込み作用を軽減するが、しかもなお、ボードは、回転の際に良好なエッジ把持力を発揮するような態様に形成されていなければならない。従って、断面でみてスチールエッジ近くで湾曲している船形形状は、スチールエッジのところの曲げ角度が大き過ぎて良好なエッジ把持力を得ることができないので、不適當である。ボードの前部と後部のソールが3本の直線から成る断面（図2参照）を有するスノーボードは、ジャンプ後着地したときのスチールエッジの食い込み作用を軽減し、しかも、回転の際に良好なエッジ把持力を発揮する。